

SQL Server 2014 Analysis Services 用 System Center 管理パック ガイド

Microsoft Corporation

公開日: 2016 年 12 月

管理パックに関するフィードバックを Operations Manager チーム ([sqlmpsfeedback@microsoft.com](mailto:sqlmpsfeedback@microsoft.com)) にお送りください。

著作権

このドキュメントは現状有姿で提供されます。このドキュメントに記載されている情報や見解 (URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む) は、将来予告なしに変更されることがあります。お客様は、その使用に関するリスクを負うものとします。

ここで使用される例は架空のものであり、説明のためだけに使用されます。  実在するものとは一切関係ありません。

このドキュメントは、Microsoft 製品の無体財産権に関する法的な権利をお客さまに許諾するものではありません。内部的な参照目的に限り、このドキュメントを複製して使用することができます。内部的な参照目的に限り、このドキュメントを変更することができます。

© 2016 Microsoft Corporation.All rights reserved.

Microsoft、Active Directory、Windows、および Windows Server は、Microsoft Corporation およびその関連会社の商標です。

記載されている会社名、製品名には、各社の商標のものもあります。

目次

[SQL Server 2014 Analysis Services 用 System Center 管理パック ガイド 5](#_Toc469566190)

[ガイドの履歴 5](#_Toc469566191)

[サポートされている構成 6](#_Toc469566192)

[管理パックのスコープ 6](#_Toc469566193)

[必須の構成 6](#_Toc469566194)

[この管理パックのファイル 7](#_Toc469566195)

[管理パックの目的 8](#_Toc469566196)

[監視シナリオ 8](#_Toc469566197)

[ヘルスのロールアップのしくみ 12](#_Toc469566198)

[SQL Server 2014 Analysis Services 用管理パックの構成 13](#_Toc469566199)

[ベスト プラクティス: カスタマイズ用の管理パックの作成 13](#_Toc469566200)

[カスタマイズ用の新しい管理パックを作成する方法 13](#_Toc469566201)

[管理パックをインポートする方法 14](#_Toc469566202)

[エージェント プロキシ オプションを有効にする方法 14](#_Toc469566203)

[セキュリティの構成 14](#_Toc469566204)

[Operations Manager コンソールの情報の表示 16](#_Toc469566205)

[バージョンに依存しない (汎用) ビューとダッシュボード 16](#_Toc469566206)

[SQL Server 2014 Analysis Services ビュー 17](#_Toc469566207)

[ダッシュボード 18](#_Toc469566208)

[リンク 19](#_Toc469566209)

[付録: 管理パックの内容 19](#_Toc469566210)

[ビューとダッシュ ボード 19](#_Toc469566211)

[Analysis Services データベース グループ 20](#_Toc469566212)

[Analysis Services データベース グループ - 検出 20](#_Toc469566213)

[Analysis Services サーバー ロール グループ 20](#_Toc469566214)

[Analysis Services サーバー ロール グループ - 検出 20](#_Toc469566215)

[サーバー ロール グループ 21](#_Toc469566216)

[サーバー ロール グループ - 検出 21](#_Toc469566217)

[SQL Server アラート スコープ グループ 21](#_Toc469566218)

[SQL Server アラート スコープ グループ - 検出 21](#_Toc469566219)

[SQL Server Analysis Services 警告スコープ グループ 21](#_Toc469566220)

[SQL Server Analysis Services 警告スコープ グループ - 検出 21](#_Toc469566221)

[SQL Server コンピューター 21](#_Toc469566222)

[SQL Server コンピューター - 検出 22](#_Toc469566223)

[SSAS 2014 イベント ログ コレクション ターゲット 22](#_Toc469566224)

[SSAS 2014 イベント ログ コレクション ターゲット - 検出 22](#_Toc469566225)

[SSAS 2014 イベント ログ コレクション ターゲット - ルール (警告) 22](#_Toc469566226)

[SSAS 2014 インスタンス 22](#_Toc469566227)

[SSAS 2014 インスタンス - ユニット モニター 23](#_Toc469566228)

[SSAS 2014 インスタンス - ルール (非警告) 29](#_Toc469566229)

[SSAS 2014 多次元 DB 39](#_Toc469566230)

[SSAS 2014 多次元 DB - 検出 39](#_Toc469566231)

[SSAS 2014 多次元 DB - ユニット モニター 39](#_Toc469566232)

[SSAS 2014 多次元 DB - 依存関係 (ロールアップ) の監視 41](#_Toc469566233)

[SSAS 2014 多次元 DB - ルール (非警告) 41](#_Toc469566234)

[SSAS 2014 多次元インスタンス 45](#_Toc469566235)

[SSAS 2014 多次元インスタンス - 検出 46](#_Toc469566236)

[SSAS 2014 多次元インスタンス - 依存関係 (ロールアップ) の監視 46](#_Toc469566237)

[SSAS 2014 多次元パーティション 46](#_Toc469566238)

[SSAS 2014 多次元パーティション - 検出 46](#_Toc469566239)

[SSAS 2014 多次元パーティション - ユニット モニター 47](#_Toc469566240)

[SSAS 2014 多次元パーティション - ルール (非警告) 47](#_Toc469566241)

[SSAS 2014 PowerPivot インスタンス 49](#_Toc469566242)

[SSAS 2014 PowerPivot インスタンス - 検出 49](#_Toc469566243)

[SSAS 2014 シード 50](#_Toc469566244)

[SSAS 2014 シード - 検出 50](#_Toc469566245)

[SSAS 2014 表形式 DB 50](#_Toc469566246)

[SSAS 2014 表形式 DB - 検出 50](#_Toc469566247)

[SSAS 2014 表形式 DB - ユニット モニター 51](#_Toc469566248)

[SSAS 2014 表形式 DB - ルール (非警告) 53](#_Toc469566249)

[SSAS 2014 表形式インスタンス 57](#_Toc469566250)

[SSAS 2014 表形式インスタンス - 検出 57](#_Toc469566251)

[SSAS 2014 表形式インスタンス - 依存関係 (ロールアップ) の監視 57](#_Toc469566252)

[付録: 既知の問題とトラブルシューティング 58](#_Toc469566253)

[ヘルスのロールアップのしくみ 12](#_Toc469566254)

# **SQL Server 2014 Analysis Services 用 System Center 管理パック ガイド**

この概要は、SQL Server 2014 Analysis Services 用管理パック バージョン 6.7.15.0 に基づきます。

## ガイドの履歴

| **リリース日** | **[変更点]** |
| --- | --- |
| 2016 年 12 月 (バージョン 6.7.15.0 RTM) | * コンピューター ホスト名が 16 文字以上の場合の構成に対するサポートが追加されました * 修正済み: AS ワークフローがクラッシュすることがある * Visualization Library を更新 |
| 2016 年 3 月 | * 参照を更新し、非推奨の要素を削除して 6.6.4.0+ Visualization Library をサポートしました * SSAS の管理パックがローカライズされた名前の OS のパフォーマンス カウンターを収集できなかったときのバグを修正しました * 検出時に問題が見つかった場合にエラーをスローするように、検出を更新しました * ノイズを低減するために、クラスター インスタンスのモジュール エラー コレクションを修正しました * CPU 使用率モニターの規定値を変更し、サーバー モニターのメモリ使用量にサンプリングを追加しました * モジュールの内部の複雑さを軽減しました * 検出を修正。最終項目を未検出にできるようになりました * ダッシュボードをよりすばやく操作できるようにし、より有益にするために、簡略化しました * ナレッジ ベースを確認し、更新しました * ネイティブでないすべてのワークフローのタイムアウト サポートを追加しました * ブロック元のセッション モニターの修正 – 一部の状況で、ブロック元のセッションを誤って計算する場合があります * Win10 サポート: OS バージョンの検出の問題を修正しました * CPU 使用率の警告の説明を修正しました * 本ガイドの「既知の問題およびトラブルシューティング」のセクションを更新しました |
| 2015 年 6 月 | ダッシュボードが新しいものに置き換えられました |
| 2014 年 10 月 | このガイドのオリジナル リリース |

## サポートされている構成

この監視パックには、System Center Operations Manager 2012 RTM 以降が必要です (ダッシュボードは SCOM 2012 SP1 以降でサポートされます)。専用の Operations Manager 管理グループは必要ありません。

次の表に、SQL Server 2014 Analysis Services 用管理パックでサポートされる構成の詳細を示します。

|  |  |
| --- | --- |
| **構成** | **サポート** |
| SQL Server 2014 Analysis Services | * 64 ビット OS 上の 64 ビット SQL Server 2014 Analysis Services * x86 OS 上の x86 SQL Server 2014 Analysis Services |
| クラスター化されたサーバー | 可 |
| エージェントレス監視 | サポートされていません |
| 仮想環境 | 可 |

### 管理パックのスコープ

SQL Server 2014 Analysis Services 用管理パックでは、次の機能を監視できます。

* 以下のいずれかのモードで実行されている SQL Server 2014 Analysis Services のインスタンス:
* 多次元モード
* 表形式モード
* PowerPivot モード
* SQL Server 2014 Analysis Services データベース
* SQL Server 2014 Analysis Services データベース パーティション

この管理パックでサポートされる監視シナリオの完全な一覧については、「[シナリオの監視](#_Monitoring_Scenarios)」セクションを参照してください。

重要

この管理パックは、SSAS インスタンスあたり最大 50 個のデータベースをサポートします。データベースが監視対象の数を超え、パーティションが多数あると、パフォーマンスが低下する可能性があります。この場合は、パーティションの検出ワークフローを無効にすることをお勧めします。

### 必須の構成

* 管理パックをインポートします。
* Windows Server と SQL Server Analysis Services の両方のインスタンスの管理者権限を持つアカウントを使用して SSAS 実行プロファイルを関連付けます。
* クラスターのメンバーであるサーバーにインストールされているすべてのエージェントに対して、エージェント プロキシ オプションを有効にします。スタンドアロン サーバーについては、このオプションを有効にする必要はありません。その方法については、この後に説明する手順を参照してください。
* SQL Server Browser サービスには、Analysis Services の検出と監視が必須です。SQL Server Browser をインストールし、有効にする必要があります。

### この管理パックのファイル

SQL Server 2014 Analysis Services 用管理パックには、次のファイルが含まれます。

| **ファイル** | **説明** |
| --- | --- |
| Microsoft.SQLServer.2014.AnalysisServices.Discovery.mpb | この管理パックは、Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services インスタンスと関連オブジェクトを検出します。管理パックには検出ロジックのみが含まれており、検出されたオブジェクトを監視するには、個別の監視管理パックをインポートする必要があります。必須。 |
| Microsoft.SQLServer.2014.AnalysisServices.Monitoring.mpb | この管理パックにより、Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services の監視が可能になります。Microsoft SQL 2014 Analysis Services (検出) 管理パックに依存します。必須。 |
| Microsoft.SQLServer.2014.AnalysisServices.Presentation.mpb | この管理パックは、SQL Server 2014 Analysis Service ダッシュボードを追加します。省略可。 |
| Microsoft.SQLServer.2014.AnalysisServices.Views.mp | この管理パックには、Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services 管理パックのビューおよびフォルダー構造が含まれます。省略可。 |
| Microsoft.SQLServer.Generic.Presentation.mp | この管理パックは、共通のフォルダー構造およびビューを定義します。省略可。 |
| Microsoft.SQLServer.Generic.Dashboards.mp | この管理パックは、SQL Server ダッシュボードに必要な共通のコンポーネントを定義します。省略可。 |
| Microsoft.SQLServer.Visualization.Library.mpb | この管理パックには、SQL Server ダッシュ ボードに必要な基本のビジュアル コンポーネントが含まれます。省略可。 |

## 管理パックの目的

この管理パックにより、SQL Server 2014 Analysis Services インスタンス、データベース、およびパーティションを監視します。

このセクションの内容:

• [監視シナリオ](#z5a9ff008734b4183946f840ae0464ab0)

• [ヘルスのロールアップのしくみ](#zb8b3e32eb8154a8da8b18b606568e65d)

この管理パックに含まれる検出、ルール、モニター、ビュー、レポートの詳細については、「[付録: 管理パックの内容](#zf475f3cc57b84a049d89cda7b1f37ba8)」を参照してください。

### 監視シナリオ

| **監視シナリオ** | **説明** | **関連付けられるルールとモニター** |
| --- | --- | --- |
| SSAS インスタンスの監視 | このシナリオにより、SSAS インスタンスの正常性状態を監視します。 | * **サービスの状態**。このモニターは、SSAS インスタンスの Windows サービスが、構成されたしきい値より長い期間、実行状態にない場合に、警告を出します。 * **SQL Server とのメモリ構成競合**このモニターは、サーバー上で SQL Server リレーショナル データベース エンジン プロセスが実行されていて、SSAS インスタンスの TotalMemoryLimit 構成が指定のしきい値を超えると警告を出し、SQL Server プロセスが十分なメモリを確保できるようにします。 * **TotalMemoryLimit 構成**。このモニターは、SSAS インスタンスに対して構成された TotalMemoryLimit が構成されたしきい値を超えたときに警告を出します。この状態の場合、オペレーティング システムで必要な基本的機能を実行するために必要な物理メモリ (最低 2 GB) を割り振ることができないおそれがあります。 * **メモリ使用量。**このモニターは、SSAS インスタンスによって割り振られたメモリが、構成されている警告しきい値を超えると警告を報告します。割り振られたメモリは、SSAS インスタンスの合計メモリ制限の設定に対するパーセンテージとして示されます。モニターは、構成された重大なしきい値をメモリ割り振りが超えると重大なアラートを発行します。 * **サーバーのメモリ使用量。**このモニターは、サーバー上で SSAS プロセス以外のプロセスが使用しているメモリ量を監視し、Analysis Services でその TotalMemoryLimit が常に使用できるようにします。 * **処理プール I/O ジョブ キューの長さ。**このモニターは、SSAS インスタンスの処理プール I/O ジョブ キューの長さが、構成済みのしきい値より長いときに警告を出します。 * **処理プール ジョブ キューの長さ。**このモニターは、SSAS インスタンスの処理プール ジョブ キューの長さが、構成済みのしきい値より長いときに警告を出します。 * **クエリ プール キューの長さ。**このモニターは、SSAS インスタンスのクエリ プール キューの長さが、構成済みのしきい値より長いときに警告を出します。 * **既定ストレージの空き領域。** このモニターは、インスタンスの既定ストレージで使用可能な空き領域が警告しきい値設定を下回ると警告を報告します。空き領域は、既定のストレージ フォルダー (DataDir) の推定サイズとディスク空き領域の合計に対するパーセンテージとして示されます。このモニターは、使用可能な領域が重大なしきい値を下回ると、重要なアラートを報告します。このモニターでは、既定ストレージ フォルダー (DataDir) 以外のフォルダーにあるデータベースまたはパーティションは考慮対象外となります。 * **CPU 使用率 –** このモニターは、SSAS プロセスによる CPU 使用率が高くなった場合に、警告を出します。 |
| SSAS データベースの監視 | このシナリオにより、SSAS データベースの正常性状態を監視します。 | * **データベースの空き領域。**このモニターは、SSAS データベースのストレージ フォルダーで使用可能なディスク空き領域が警告しきい値設定を下回ると警告を報告します。空き領域は、データベース ストレージ フォルダーの推定サイズとディスク空き領域の合計に対するパーセンテージとして示されます。このモニターは、使用可能な領域が重大なしきい値を下回ると、重要なアラートを報告します。 * **ブロック期間。**このモニターは、少なくとも 1 つのセッションが構成されているしきい値よりも長い期間ブロックされているとアラートを生成します。 * **ブロックされているセッション カウント。**このモニターは、構成されている WaitMinutes 設定よりも長い期間ブロックされているセッション数が、構成されているしきい値を超えるとアラートを生成します。 |
| SSAS パーティションの監視 | このシナリオにより、SSAS 多次元データベースのパーティションの正常性状態を監視します。 | * **パーティション ストレージの空き領域**。このモニターは、パーティション ストレージの場所で使用できる空き領域が重大なしきい値設定を下回ると警告を報告します。空き領域は、フォルダーの合計サイズとディスクの空き領域の合計に対するパーセンテージとして示されます。このモニターは使用できる領域が警告しきい値を下回ると重大なアラートを報告します。このモニターでは、SSAS インスタンスの既定のストレージの場所にある使用可能な領域は監視対象外です。 |
| パフォーマンス収集ルール | このシナリオは、さまざまな重要なパフォーマンス メトリックを収集します | SSAS 2014: データベース ディスクの空き領域 (GB)  SSAS 2014: 他のものによって使用されているデータベース ドライブ領域 (GB)  SSAS 2014: データベース ブロック期間 (分)  SSAS 2014: データベースの空き領域 (%)  SSAS 2014: データベースの空き領域 (GB)  SSAS 2014: データベースのブロックされたセッション数  SSAS 2014: データベース サイズ (GB)  SSAS 2014: データベース記憶域のフォルダー サイズ (GB)  SSAS 2014: パーティション サイズ (GB)  SSAS 2014: パーティション空き領域 (GB)  SSAS 2014: 他のものによって使用されているパーティション (GB)  SSAS 2014: パーティションの空き領域 (%)  SSAS 2014: 合計ドライブ サイズ (GB)  SSAS 2014: ドライブの使用領域 (GB)  SSAS 2014: 実際のシステム キャッシュ (GB)  SSAS 2014: インスタンスの空き領域 (%)  SSAS 2014: インスタンスの空き領域 (GB)  SSAS 2014: キャッシュ削除数/秒  SSAS 2014: キャッシュ挿入数/秒  SSAS 2014: 追加されたキャッシュ KB/秒  SSAS 2014: CPU 使用率 (%)  SSAS 2014: 既定の記憶域フォルダー サイズ (GB)  SSAS 2014: メモリの下限 (GB)  SSAS 2014: クリーナーの現在の価格  SSAS 2014: サーバーでのメモリ使用量 (GB)  SSAS 2014: サーバーでのメモリー使用率 (%)  SSAS 2014: 圧縮不能な AS によるメモリ使用量 (GB)  SSAS 2014: 処理プール I/O ジョブ キューの長さ  SSAS 2014: 処理プールのジョブ キューの長さ  SSAS 2014: 読み取られる処理行数/秒  SSAS 2014: インスタンス メモリ (GB)  SSAS 2014: インスタンス メモリ (%)  SSAS 2014: クエリ プール ジョブのキューの長さ  SSAS 2014: 送信されたストレージ エンジン クエリ行数/秒  SSAS 2014: 合計メモリ制限 (GB)  SSAS 2014: サーバー上の合計メモリ (GB)  SSAS 2014: ドライブ上の使用中の領域 (GB) |
| 警告ルール | このルールは、発生したエラーについて通知します | SSAS 2014 MP マネージ モジュールの実行中にエラーが発生しました |

ヘルスのロールアップのしくみ

次の図に、オブジェクトのヘルス状態がこの管理パックでロールアップされるしくみを示します。



# SQL Server 2014 Analysis Services 用管理パックの構成

このセクションでは、この管理パックの構成およびチューニングに関するガイダンスを示します。

• [ベスト プラクティス: カスタマイズ用の管理パックの作成](#z2)

* [管理パックをインポートする方法](#_How_to_import)
* [エージェント プロキシ オプションを有効にする方法](#_How_to_enable)

• [セキュリティの構成](#z3)

### ベスト プラクティス: カスタマイズ用の管理パックの作成

Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services 用管理パックは封印されているので、管理パック ファイルの元の設定は一切変更できません。ただし、上書き、新しい監視オブジェクトなどのカスタマイズを作成し、それらを別の管理パックに保存することができます。Operations Manager の既定では、すべてのカスタマイズは既定の管理パックに保存されます。ベスト プラクティスとして、代わりに、カスタマイズする封印された管理パックごとに、別の管理パックを作成することをお勧めします。

上書きを格納する新しい管理パックを作成することにより、次の利点を得ることができます。

• 封印された管理パック用にカスタマイズした設定を保存するために管理パックを作成するときは、カスタマイズしている管理パックの名前を基に、"Microsoft SQL Server 2014 Analysis Service 上書き" のように新しい管理パックの名前を付けると便利です。

* 封印された管理パックごとのカスタマイズ設定を保存するために新しい管理パックを作成すると、カスタマイズ設定をテスト環境から運用環境にエクスポートする処理が簡単になります。また、管理パックを削除する前に依存関係を削除する必要があるため、こうすることで管理パックの削除も簡単になります。すべての管理パックのカスタマイズ設定を既定の管理パックに保存しておくと、1 つの管理パックを削除するときにまず既定の管理パックを削除する必要があるため、他の管理パックのカスタマイズ設定も削除されてしまいます。

封印された管理パックと封印されていない管理パックの詳細については、「[管理パックの形式](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=108355)」を参照してください。管理パックのカスタマイズおよび既定の管理パックの詳細については、「[管理パックについて](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=108356)」を参照してください。

### カスタマイズ用の新しい管理パックを作成する方法

**エージェント プロキシ オプション**を有効にするには、次の手順を実行します。

1. オペレーション コンソールを開き、[**管理**] ボタンをクリックします。

2. [管理パック] を右クリックし、[新しい管理パックの作成] をクリックします。

3. 名前 (例: SQLMP カスタマイズ) を入力して、[次へ] をクリックします。

4. [作成] をクリックします。

### 管理パックをインポートする方法

管理パックのインポートの詳細については、「[Operations Manager 管理パックをインポートする方法](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717823)」をご覧ください。

### エージェント プロキシ オプションを有効にする方法

**エージェント プロキシ オプション**を有効にするには、次の手順を実行します。

1. オペレーション コンソールを開き、[**管理**] ボタンをクリックします。

2. [管理者] ウィンドウで [エージェントで管理] をクリックします。

3. 一覧内のエージェントをダブルクリックします。

4. [セキュリティ] タブで、[このエージェントをプロキシとして動作させ、他のコンピューター上の管理オブジェクトを検出する] をクリックします。

## セキュリティの構成

注

このリリースでは、低い特権の監視はサポートされていません。

#### 実行プロファイル

Microsoft SQL Server Analysis Services 用管理パックの初回インポート時に、次の 2 つの新しい実行プロファイルが作成されます。

* Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services Discovery 実行プロファイル - このプロファイルは、すべての検出に関連付けられています。
* Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services Monitoring 実行プロファイル - このプロファイルは、すべての監視およびタスクに関連付けられています。

既定では、SQL Server 管理パックで定義されたすべての検出および監視は、"既定のアクション アカウント" 実行プロファイルで定義されたアカウントを使用します。システムの既定のアクション アカウントに SQL Server Analysis Services のインスタンスの検出または監視に必要な権限がない場合は、必要なアクセス権を持つ、Microsoft SQL Server 2014 実行プロファイルの特定の資格情報に、これらのシステムをバインドできます。

| **実行プロファイル名** | **関連付けられたルール、モニターおよび検出** | **注** |
| --- | --- | --- |
| Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services Discovery 実行プロファイル | SSAS 2014 グループ検出  SSAS 2014 シード検出  SSAS 2014 多次元インスタンス検出  SSAS 2014 多次元 DB 検出  SSAS 2014 多次元パーティション検出  SSAS 2014 PowerPivot インスタンス検出  SSAS 2014 表形式インスタンス検出  SSAS 2014 表形式 DB 検出 | Windows Server と SQL Server Analysis Services の両方のインスタンスの管理者権限を持つアカウントを使用する必要があります |
| Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services Monitoring 実行プロファイル | SSAS 2014: データベース ディスクの空き領域 (GB)  SSAS 2014: 他のものによって使用されているデータベース ドライブ領域 (GB)  SSAS 2014: データベース ブロック期間 (分)  SSAS 2014: データベースの空き領域 (%)  SSAS 2014: データベースの空き領域 (GB)  SSAS 2014: データベースのブロックされたセッション数  SSAS 2014: データベース サイズ (GB)  SSAS 2014: データベース記憶域のフォルダー サイズ (GB)  SSAS 2014: パーティション サイズ (GB)  SSAS 2014: パーティション空き領域 (GB)  SSAS 2014: 他のものによって使用されているパーティション (GB)  SSAS 2014: パーティションの空き領域 (%)  SSAS 2014: 合計ドライブ サイズ (GB)  SSAS 2014: ドライブの使用領域 (GB)  SSAS 2014: 実際のシステム キャッシュ (GB)  SSAS 2014: インスタンスの空き領域 (%)  SSAS 2014: インスタンスの空き領域 (GB)  SSAS 2014: キャッシュ削除数/秒  SSAS 2014: キャッシュ挿入数/秒  SSAS 2014: 追加されたキャッシュ KB/秒  SSAS 2014: CPU 使用率 (%)  SSAS 2014: 既定の記憶域フォルダー サイズ (GB)  SSAS 2014: メモリの下限 (GB)  SSAS 2014: クリーナーの現在の価格  SSAS 2014: サーバーでのメモリ使用量 (GB)  SSAS 2014: サーバーでのメモリー使用率 (%)  SSAS 2014: 圧縮不能な AS によるメモリ使用量 (GB)  SSAS 2014: 処理プール I/O ジョブ キューの長さ  SSAS 2014: 処理プールのジョブ キューの長さ  SSAS 2014: 読み取られる処理行数/秒  SSAS 2014: インスタンス メモリ (GB)  SSAS 2014: インスタンス メモリ (%)  SSAS 2014: クエリ プール ジョブのキューの長さ  SSAS 2014: 送信されたストレージ エンジン クエリ行数/秒  SSAS 2014: 合計メモリ制限 (GB)  SSAS 2014: サーバー上の合計メモリ (GB)  SSAS 2014: ドライブ上の使用中の領域 (GB) | Windows Server と SQL Server Analysis Services の両方のインスタンスの管理者権限を持つアカウントを使用する必要があります |

## Operations Manager コンソールの情報の表示

### バージョンに依存しない (汎用) ビューとダッシュボード

Microsoft.SQLServer.Generic.Presentation 管理パックには、SQL Server の各種コンポーネントに対する管理パックの今後のリリースで使用される共通のフォルダー構造が導入されています。次のビューとダッシュボードは、バージョンに依存せず、SQL Server のすべてのバージョンに関する情報を表示します。

Microsoft SQL Server

アクティブな警告

SQL Server ロール

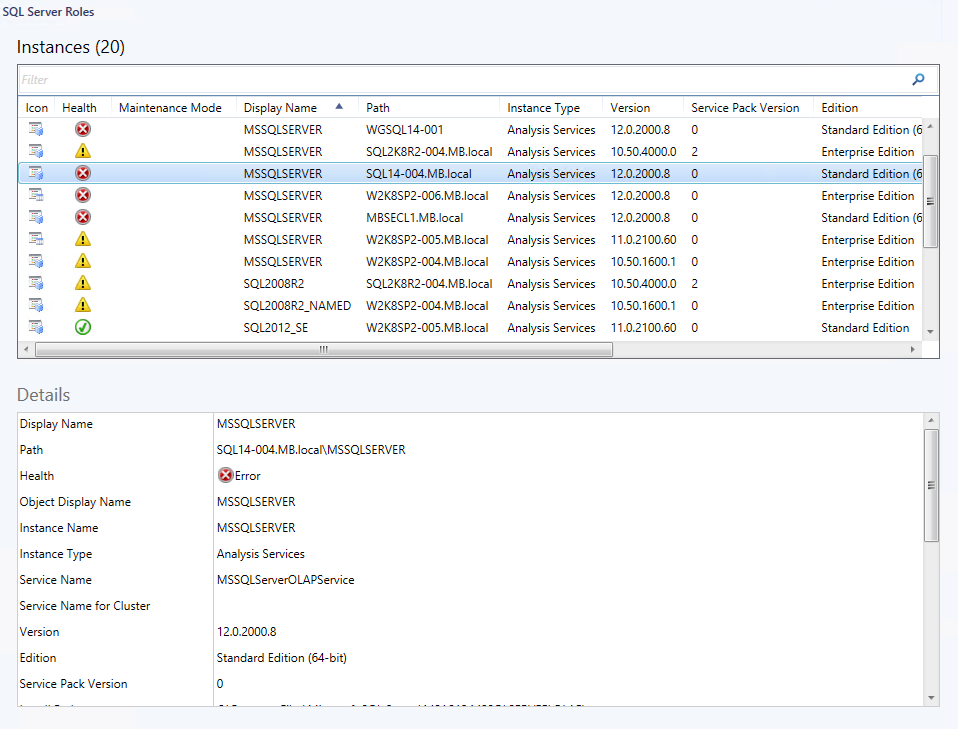


概要

コンピューター

タスクの状態

「SQL Server ロール」ダッシュ ボードは、SQL Server データベース エンジン、SQL Server Reporting Services、SQL Server Analysis Services および SQL Server Integration Services のすべてのインスタンスに関する情報を提供します。



### SQL Server 2014 Analysis Services ビュー

Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services 用管理パックには、専用のフォルダーに格納された、状態、パフォーマンス、アラート ビューの包括的なセットが導入されています。

監視

Microsoft SQL Server

SQL Server Analysis Services

**SQL Server 2014 Analysis Services**

注

ビューの完全な一覧については、このガイドの「[付録: ビューとダッシュボード](#_Views_and_Dashboards)」セクションを参照してください。

注

一部のビューには、オブジェクトまたはメトリックの非常に長いリストが含まれている場合があります。Operations Manager ツールバーの [スコープ]、[検索]、および [検索] ボタンを使用して、特定のオブジェクトまたはオブジェクトのグループを見つけることができます。詳細については、Operations Manager ヘルプの記事「[Operations Manager コンソールでのデータとオブジェクトの検索](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717825)」を参照してください。

### ダッシュボード

この管理パックには、SQL Server 2014 Analysis Services (インスタンス) とデータベースに関する詳細情報を提供する豊富なダッシュボードのセットが含まれています。

注

詳細については、SQLServerDashboards.doc を参照してください。

## リンク

以下のリンクから、System Center 管理パックに関連する一般的なタスクに関する情報が得られます。

1. [管理パックのライフ サイクル](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717826)
2. [Operations Manager 管理パックをインポートする方法](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717831)
3. [上書き用管理パックの作成](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717827)
4. [実行アカウントと実行プロファイルの管理](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717824)
5. [Operations Manager 管理パックをエクスポートする方法](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717828)
6. [Operations Manager 管理パックを削除する方法](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717829)

既に管理パックの基本機能にある程度慣れており、サービス パックの知識を広げたいと考えている場合は、Microsoft Virtual Academy (MVA) の 「[System Center 2012 R2 Operations Manager 管理パック](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717830)コース」をご覧ください。

Operations Manager および管理パックに関する質問については、「[System Center Operations Manager コミュニティ フォーラム](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=179635)」(http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=179635) を参照してください。

重要

Microsoft 以外のサイトのすべての情報と内容は、その Web サイトの所有者またはユーザーによって提供されています。Microsoft はこの Web サイトの情報について、明示、黙示、または法定を問わず、一切保証しません。

# 付録: 管理パックの内容

Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services 用管理パックで検出されるクラスのオブジェクトを、次のセクションで説明します。すべてのオブジェクトが自動的に検出されるとは限りません。自動的に検出されないオブジェクトの検出を有効にするには、上書きを使用します。

## ビューとダッシュ ボード

この管理パックには、次のフォルダー、ビューおよびダッシュボードが含まれます。

Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services

アクティブな警告

データベースの状態

概要

インスタンスの状態

多次元の Analysis Services

アクティブな警告

データベースの状態

インスタンスの状態

パーティションの状態

パフォーマンス

PowerPivot Analysis Services

アクティブな警告

インスタンスの状態

パフォーマンス

表形式の Analysis Services

アクティブな警告

データベースの状態

インスタンスの状態

パフォーマンス

## Analysis Services データベース グループ

Analysis Services Database グループには、Analysis Services インスタンスなど、SQL Server のすべてのルート オブジェクトが含まれます。

### Analysis Services データベース グループ - 検出

**SSAS 2014: サーバー データベース グループ検出**

このオブジェクト検出は、すべての SQL Server 2014 Analysis Services サーバー ロールをサーバー ロール グループに含めます。

## Analysis Services サーバー ロール グループ

Analysis Services サーバー ロール グループには、Analysis Services インスタンスなど、SQL Server のすべてのルート オブジェクトが含まれます。

### Analysis Services サーバー ロール グループ - 検出

**SSAS 2014: サーバー ロール グループ検出**

このオブジェクト検出は、すべての SQL Server 2014 Analysis Services サーバー ロールをサーバー ロール グループに含めます。

## サーバー ロール グループ

サーバー ロール グループには、Database Engine、Analysis Services インスタンス、Reporting Service インスタンスなど、SQL Server のすべてのルート オブジェクトが含まれます。

### サーバー ロール グループ - 検出

**SSAS 2014: サーバー ロール グループ検出**

このオブジェクト検出は、すべての SQL Server 2014 Analysis Services サーバー ロールをサーバー ロール グループに含めます。

## SQL Server アラート スコープ グループ

SQL Server 警告スコープ グループには、SQL Server のオブジェクトのうち、警告を生成する可能性のあるものが含まれます。

### SQL Server アラート スコープ グループ - 検出

**SSAS 2014: スコープ グループ検出をアラート**

このオブジェクト検出は、警告スコープ グループにすべての SQL Server 2014 Analysis Services サーバー ロールを追加します。

## SQL Server Analysis Services 警告スコープ グループ

SQL Server Analysis Services 警告スコープ グループには、SQL Server Analysis Services のオブジェクトのうち警告を生成する可能性のあるものが含まれます。

### SQL Server Analysis Services 警告スコープ グループ - 検出

**SSAS 2014: スコープ グループ検出をアラート**

このオブジェクト検出は、警告スコープ グループにすべての SQL Server 2014 Analysis Services サーバー ロールを追加します。

## SQL Server コンピューター

このグループには、Microsoft SQL Server のコンポーネントが実行されているすべての Windows コンピューターが含まれます

### SQL Server コンピューター - 検出

**SSAS 2014: SQL Server コンピューター グループのメンバーシップの検出**

SQL Server 2014 Analysis Services を実行するすべてのコンピューターをコンピューター グループに含めます。

## SSAS 2014 イベント ログ コレクション ターゲット

このオブジェクトは、SSAS 2014 コンポーネントを含むコンピューターのイベント ログからエラーを収集するために使用されます。

### SSAS 2014 イベント ログ コレクション ターゲット - 検出

**SSAS 2014 イベント ログ コレクション ターゲット検出**

この検出ルールにより、Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services のイベント ログ コレクション ターゲットを検出します。このオブジェクトは、SSAS 2014 コンポーネントを含むコンピューターのイベント ログからモジュール エラー を収集するために使用されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | はい | | 秒単位による頻度 |  | 14400 | |  |
|  |  |  |

### SSAS 2014 イベント ログ コレクション ターゲット - ルール (警告)

**SSAS 2014 MP マネージ モジュールの実行中にエラーが発生しました**

ルールはイベント ログを監視し、SSAS 2014 管理パックによって送信されるエラー イベントの発生を監視します。ワークフローのいずれか (検出、ルール、または監視) が失敗すると、イベントがログに記録されて重要な警告が報告されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | 可 | | [Priority] |  | 2 | | Severity |  | 2 | |  |
|  |  |  |

## SSAS 2014 インスタンス

Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services のインストール

### SSAS 2014 インスタンス - ユニット モニター

**CPU 使用率 (%)**

このモニターは、SSAS プロセスによる CPU 使用率がしきい値を超えるとアラートを生成します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 重大しきい値 (%) | このモニターは、SSAS プロセスによる CPU 使用率がしきい値より高い場合にアラートを生成します。 | 95 | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | サンプル数 | 測定値が何回しきい値に違反すると状態変更が生じるかを示します。 | 4 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**サーバーのメモリ使用量**

モニターは、サーバー上で Analysis Services プロセス以外のプロセスが使用しているメモリ量を監視し、Analysis Services で 合計メモリ制限が常に使用できるようにします。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 重大しきい値 (%) | 正常性状態は、予約されていない空き領域 (%) がしきい値を下回ると重大に変更されます。 | 5 | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | | 警告しきい値 (%) | 正常性状態は、予約されていない空き領域 (%) がしきい値を下回り、同時に重大なしきい値 (%) よりも高い場合に警告に変更されます。 | 10 | |  |
|  |  |  |

**既定ストレージの空き領域**

このモニターは、既定のインスタンスのストレージで使用可能な空き領域が警告しきい値設定を下回ると警告を報告します。空き領域は、既定のストレージ フォルダー (データ ディレクトリ) の推定サイズとディスクの空き領域の合計に対するパーセンテージとして示されます。このモニターは、使用可能な領域が重大なしきい値を下回ると、重要なアラートを報告します。このモニターでは、データベース ストレージ フォルダー (データ ディレクトリ) 以外のフォルダーにあるパーティションは考慮対象外です。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 重大しきい値 (%) | 正常性状態は、AS インスタンスの空き領域 (%) パフォーマンス カウンターがしきい値を下回ると重大に変更されます。 | 5 | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | | 警告しきい値 (%) | 正常性状態は、AS インスタンスの空き領域 (%) パフォーマンス カウンターがしきい値を下回り、同時に重大なしきい値 (%) よりも高い場合に警告に変更されます。 | 10 | |  |
|  |  |  |

**サービスの状態**

このモニターは、SSAS インスタンスの Windows サービスが、構成されているしきい値より長い期間、実行状態にない場合にアラートを生成します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | サービスのスタートアップの種類が [自動] の場合にのみ警告 | この値は、'True' または 'False' にのみ設定できます。'False' に設定されていると、設定されているスタートアップの種類に関係なく警告が発生します。既定値は 'True' です。 | true | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な実行間隔 (秒)。 | 60 | | サンプル数 | 正常性状態は、後続のチェック失敗数がチェックの最小数以上になると変更されます。 | 15 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SQL Server とのメモリ構成競合**

このモニターは、サーバーで SQL Server リレーショナル データベース エンジン プロセスが実行されていて、SSAS インスタンスの合計メモリ制限の構成が指定のしきい値を超えるとアラートを生成し、SQL Server プロセスが十分なメモリを確保できるようにします。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 604800 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | | 警告しきい値 (%) | 正常性状態は、サーバー上で SQL Server リレーショナル データベース エンジン プロセスが実行されていて、SSAS インスタンスの合計メモリ制限の構成設定がしきい値を超えると変更されます。 | 40 | |  |
|  |  |  |

**処理プール I/O ジョブ キューの長さ**

このモニターは、SSAS インスタンスの処理プール I/O ジョブ キューの長さが、構成済みのしきい値より長いときに警告を出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | サンプル数 | 正常性状態は、しきい値違反数が違反の最小数以上になると変更されます。 | 4 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | | 警告しきい値 | 正常性状態は、Analysis Services パフォーマンス カウンターがしきい値を超えると変更されます。 | 0 | |  |
|  |  |  |

**処理プール ジョブ キューの長さ**

このモニターは、SSAS インスタンスの処理プール ジョブ キューの長さが構成されているしきい値を超えるとアラートを生成します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | サンプル数 | 正常性状態は、しきい値違反数が違反の最小数以上になると変更されます。 | 4 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | | 警告しきい値 | 正常性状態は、Analysis Services パフォーマンス カウンターがしきい値を超えると変更されます。 | 0 | |  |
|  |  |  |

合計**メモリ制限の構成**

このモニターは、SSAS インスタンスに対して構成された合計メモリ制限が、構成されているしきい値を超えるとアラートを生成します。この状態の場合、オペレーティング システムで必要な基本的機能を実行するために必要な物理メモリ (最低 2 GB) を割り振ることができないおそれがあります。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 604800 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | | 警告しきい値 (GB) | このモニターは、オペレーティング システムに対して構成された合計メモリ制限が、構成されているしきい値を超えるとアラートを生成します。この状態の場合、オペレーティング システムで必要な基本的機能を実行するために必要な物理メモリ (最低 2 GB) を割り振ることができないおそれがあります。 | 2 | |  |
|  |  |  |

**メモリ使用量**

このモニターは、SSAS インスタンスによって割り振られたメモリが、構成されている警告しきい値を超えると警告を報告します。割り振られたメモリは、SSAS インスタンスの合計メモリ制限の設定に対するパーセンテージとして示されます。モニターは、構成された重大なしきい値をメモリ割り振りが超えると重大なアラートを発行します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 重大しきい値 (%) | 正常性状態は、Analysis Services メモリ使用量 (%) がしきい値を超えると重大に変更されます。 | 95 | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | | 警告しきい値 (%) | 正常性状態は、Analysis Services メモリ使用率 (%) がしきい値を超え、同時に重大なしきい値 (%) より低い場合に警告に変更されます。 | 80 | |  |
|  |  |  |

**クエリ プール キューの長さ**

このモニターは、SSAS インスタンスのクエリ プール キューのサイズが構成されているしきい値を超えるとアラートを生成します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | サンプル数 | 正常性状態は、しきい値違反数が違反の最小数以上になると変更されます。 | 4 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | | 警告しきい値 | 正常性状態は、Analysis Services パフォーマンス カウンターがしきい値を超えると変更されます。 | 0 | |  |
|  |  |  |

### SSAS 2014 インスタンス - ルール (非警告)

**SSAS 2014: 処理プールのジョブ キューの長さ**

このルールにより、処理プール ジョブ キューの長さが収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: サーバー上の合計メモリ (GB)**

このルールにより、SSAS インスタンスが実行されているコンピューターのメモリ合計サイズがギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: インスタンスの空き領域 (%)**

このルールにより、SSAS インスタンスの既定ストレージ フォルダー (データ ディレクトリ) が配置されているドライブの空き領域量が収集されます。空き領域量は、既定ストレージ フォルダー (データ ディレクトリ) の推定サイズとディスク空き領域の合計に対するパーセンテージとして示されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: 圧縮不能な AS によるメモリ使用量 (GB)**

このルールにより、SSAS インスタンスによって割り振られている圧縮不能なメモリがギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: 読み取られる処理行数/秒**

このルールにより、すべてのリレーショナル データベースから読み取られた行の比率が収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: 追加されたキャッシュ KB/秒**

このルールにより、SSAS のキャッシュに追加されたメモリの比率 (KB/秒) が収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: サーバーでのメモリー使用率 (%)**

このルールにより、SSAS インスタンスが配置されているサーバーのメモリ使用量の合計がパーセントで収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: インスタンスの空き領域 (GB)**

このルールにより、SSAS インスタンスの既定ストレージ フォルダー (データ ディレクトリ) が配置されているドライブの空き領域がギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: ドライブ上の使用中の領域 (GB)**

このルールにより、SSAS インスタンス データ ディレクトリ が配置されているディスクの使用ディスク領域の合計量が収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: メモリの下限 (GB)**

このルールにより、SSAS インスタンスのメモリの下限の現在の構成値がギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: インスタンス メモリ (GB)**

このルールにより、SSAS インスタンスによって割り振られたメモリの合計サイズがギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: キャッシュ挿入数/秒**

このルールにより、SSAS のキャッシュへの挿入の比率が収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: 処理プール I/O ジョブ キューの長さ**

このルールにより、SSAS 処理プール I/O ジョブ キューの長さが収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: 既定の記憶域フォルダー サイズ (GB)**

このルールにより、SSAS インスタンスの既定ストレージ フォルダー (データ ディレクトリ) の合計サイズがギガバイト単位で収集されます。合計サイズは、データベースの推定サイズと データ ディレクトリ にあるパーティション サイズの合計として計算されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: キャッシュ削除数/秒**

このルールにより、SSAS のキャッシュからの立ち退き率が収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: 実際のシステム キャッシュ (GB)**

このルールにより、SSAS インスタンスが配置されているコンピューターのシステム キャッシュのサイズがギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: 合計ドライブ サイズ (GB)**

このルールにより、SSAS インスタンスの既定ストレージ フォルダー (データ ディレクトリ) が配置されているドライブの合計サイズがギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: 送信されたストレージ エンジン クエリ行数/秒**

このルールにより、サーバーからクライアントに送信された行の比率が収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: CPU 使用率 (%)**

このルールにより、SSAS インスタンスによる CPU 使用率が収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: 合計メモリ制限 (GB)**

このルールにより、SSAS インスタンスの合計メモリ制限の構成値がギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: クリーナーの現在の価格**

このルールは、SSAS によって算出されるメモリの現在の費用 (バイト当たり、単位時間当たりのコスト) を収集します。それは正規化され、0 ～ 1000 のスケールで表されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: クエリ プール ジョブのキューの長さ**

このルールにより、クエリ プール ジョブ キューの長さが収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: インスタンス メモリ (%)**

このルールにより、SSAS インスタンスによって割り振られているメモリの合計サイズがパーセントで収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: サーバーでのメモリ使用量 (GB)**

このルールにより、SSAS インスタンスが配置されているサーバー上のメモリ使用量の合計がギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

## SSAS 2014 多次元 DB

SSAS 2014 多次元 DB

### SSAS 2014 多次元 DB - 検出

**SSAS 2014 多次元 DB 検出**

このオブジェクト検出は、Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services (多次元モード) のインスタンスのすべてのデータベースを検出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | はい | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 14400 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

### SSAS 2014 多次元 DB - ユニット モニター

**ブロック期間**

このモニターは、少なくとも 1 つのセッションが構成されているしきい値よりも長い期間ブロックされているとアラートを生成します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | | 警告しきい値 (分) | 正常性状態は、少なくとも 1 つのセッションがしきい値よりも長い間ブロックされると変更されます。 | 1 | |  |
|  |  |  |

**データベースの空き領域**

このモニターは、SSAS 多次元 データベースのストレージ フォルダーで使用可能なディスク空き領域が警告しきい値設定を下回ると警告を報告します。空き領域は、データベース ストレージ フォルダーの推定サイズとディスクの空き領域の合計に対するパーセンテージとして示されます。このモニターは、使用可能な領域が重大なしきい値を下回ると、重要なアラートを報告します。このモニターでは、データベース ストレージ フォルダー以外のフォルダーにあるパーティションは考慮対象外です。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 重大しきい値 (%) | 正常性状態は、データベースの空き領域 (%) パフォーマンス カウンターがしきい値を下回ると重大に変更されます。 | 5 | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | | 警告しきい値 (%) | 正常性状態は、データベースの空き領域 (%) パフォーマンス カウンターがしきい値を下回り、同時に重大なしきい値 (%) よりも高い場合に警告に変更されます。 | 10 | |  |
|  |  |  |

**ブロックされているセッション カウント**

このモニターは、構成されている WaitMinutes 設定よりも長い期間ブロックされているセッション数が、構成されているしきい値を超えるとアラートを生成します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 重大しきい値 | 正常性状態は、ブロックされているセッション数がしきい値を超えると変更されます。 | 10 | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | サンプル数 | 正常性状態は、しきい値違反数が違反の最小数以上になると変更されます。 | 4 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | | 待機期間 (分) | 待機期間 (分) パラメーターは、セッションが監視対象となるまでの最小待機時間を定義します。 | 1 | |  |
|  |  |  |

### SSAS 2014 多次元 DB - 依存関係 (ロールアップ) の監視

**パーティションのパフォーマンス ロールアップ**

SQL Server 2014 Analysis Services 多次元パーティションのパフォーマンス正常性のロールアップ

### SSAS 2014 多次元 DB - ルール (非警告)

**SSAS 2014: データベース サイズ (GB)**

このルールにより、データベースの推定合計サイズ (すべてのパーティション サイズを含みます) がギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: ドライブの使用領域 (GB)**

このルールにより、データベース ストレージ フォルダーが配置されているドライブ上のすべてのファイルとフォルダーの合計サイズがギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: 合計ドライブ サイズ (GB)**

このルールにより、データベース ストレージ フォルダーが配置されているドライブの合計サイズがギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: データベースのブロックされたセッション数**

このルールにより、現在ブロックされているセッション数が収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: データベースの空き領域 (%)**

ルールは、データベースのストレージ フォルダーがあるドライブの空き領域 (データベース ストレージ フォルダーの推定サイズとディスクの空き領域の合計に対する割合 (%) で表される) を収集します。このルールでは、データベース ストレージ フォルダー以外のフォルダーにあるパーティションは考慮対象外です。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: データベース ブロック期間 (分)**

このルールにより、現在ブロックされているセッションのうち、最も長いブロック期間が収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: 他のものによって使用されているデータベース ドライブ領域 (GB)**

このルールにより、データベースが配置されているドライブで、データベース以外のものが使用している使用領域量が収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: データベースの空き領域 (GB)**

このルールにより、データベースのストレージ フォルダーが配置されているドライブの空き領域量がギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: データベース ディスクの空き領域 (GB)**

このルールにより、データベースが配置されているドライブの空き領域量が収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: データベース記憶域のフォルダー サイズ (GB)**

このルールにより、データベース ストレージ フォルダーの推定サイズがギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

## SSAS 2014 多次元インスタンス

Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services (多次元モード) のインストール

### SSAS 2014 多次元インスタンス - 検出

**SSAS 2014 多次元インスタンス検出**

このオブジェクト検出は、Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services (多次元モード) のすべてのインスタンスを検出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | はい | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 14400 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

### SSAS 2014 多次元インスタンス - 依存関係 (ロールアップ) の監視

**データベース パフォーマンス (ロールアップ)**

SQL Server 2014 Analysis Services 多次元データベースのパフォーマンス正常性のロールアップ

## SSAS 2014 多次元パーティション

Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services 多次元パーティション

### SSAS 2014 多次元パーティション - 検出

**SSAS 2014 多次元パーティション検出**

このオブジェクト検出は、Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services (多次元モード) のすべてのパーティションを検出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | はい | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 14400 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

### SSAS 2014 多次元パーティション - ユニット モニター

**パーティション ストレージの空き領域**

このモニターは、パーティション ストレージの場所で使用できる空き領域が重大なしきい値設定を下回ると警告を報告します。空き領域は、フォルダーの合計サイズとディスクの空き領域の合計に対するパーセンテージとして示されます。このモニターは使用できる領域が警告しきい値を下回ると重大なアラートを報告します。このモニターでは、SSAS インスタンスの既定のストレージの場所にある使用可能な領域は監視対象外です。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 重大しきい値 (%) | 正常性状態は、パーティションの空き領域 (%) パフォーマンス カウンターがしきい値を下回ると重大に変更されます。 | 5 | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | | 警告しきい値 (%) | 正常性状態は、パーティションの空き領域 (%) パフォーマンス カウンターがしきい値を下回り、同時に重大なしきい値 (%) よりも高い場合に警告に変更されます。 | 10 | |  |
|  |  |  |

### SSAS 2014 多次元パーティション - ルール (非警告)

**SSAS 2014: パーティションの空き領域 (%)**

このルールにより、パーティション ストレージが配置されているドライブの空き領域サイズが収集されます。このサイズは、パーティション ストレージ フォルダーの合計サイズとディスク空き領域の合計に対するパーセンテージとして示されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: パーティション サイズ (GB)**

このルールにより、パーティションの推定サイズがギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: 他のものによって使用されているパーティション (GB)**

このルールにより、パーティションのストレージ フォルダーが配置されているドライブの領域量がギガバイト単位で収集されます。これは、パーティションのストレージ フォルダー以外のファイルとフォルダーによって割り振られた領域です。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: パーティション空き領域 (GB)**

このルールにより、パーティションのストレージ フォルダーが配置されているドライブの空き領域量がギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

## SSAS 2014 PowerPivot インスタンス

Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services (PowerPivot モード) のインストール

### SSAS 2014 PowerPivot インスタンス - 検出

**SSAS 2014 PowerPivot インスタンス検出**

このオブジェクト検出は、Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services (PowerPivot モード) のすべてのインスタンスを検出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | はい | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 14400 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

## SSAS 2014 シード

Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services シードのインストール

### SSAS 2014 シード - 検出

**SSAS 2014 シード検出**

このオブジェクト検出は、Analysis Services インストールのシードを検出します。このオブジェクトは特定のサーバー コンピューターに Analysis Services のインストールが含まれていることを示します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | はい | | 秒単位による頻度 |  | 14400 | |  |
|  |  |  |

## SSAS 2014 表形式 DB

SSAS 2014 表形式 DB

### SSAS 2014 表形式 DB - 検出

**SSAS 2014 表形式 DB 検出**

このオブジェクト検出は、Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services 表形式モードの特定のインスタンスに対して実行されているすべてのデータベースを検出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | はい | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 14400 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

### SSAS 2014 表形式 DB - ユニット モニター

**データベースの空き領域**

このモニターは、SSAS 表形式データベースのストレージ フォルダーで使用可能なディスク空き領域が警告しきい値設定を下回ると警告を報告します。空き領域は、データベース ストレージ フォルダーの推定サイズとディスク空き領域の合計に対するパーセンテージとして示されます。このモニターは、使用可能な領域が重大なしきい値を下回ると、重要なアラートを報告します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 重大しきい値 (%) | 正常性状態は、データベースの空き領域 (%) パフォーマンス カウンターがしきい値を下回ると重大に変更されます。 | 5 | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | | 警告しきい値 (%) | 正常性状態は、データベースの空き領域 (%) パフォーマンス カウンターがしきい値を下回り、同時に重大なしきい値 (%) よりも高い場合に警告に変更されます。 | 10 | |  |
|  |  |  |

**ブロック期間**

このモニターは、少なくとも 1 つのセッションが構成されているしきい値よりも長い期間ブロックされているとアラートを生成します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | | 警告しきい値 (分) | 正常性状態は、少なくとも 1 つのセッションがしきい値よりも長い間ブロックされると変更されます。 | 1 | |  |
|  |  |  |

**ブロックされているセッション カウント**

このモニターは、構成されている WaitMinutes 設定よりも長い期間ブロックされているセッション数が、構成されているしきい値を超えるとアラートを生成します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 重大しきい値 | 正常性状態は、ブロックされているセッション数がしきい値を超えると変更されます。 | 10 | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | サンプル数 | 正常性状態は、しきい値違反数が違反の最小数以上になると変更されます。 | 4 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | | 待機期間 (分) | 待機期間 (分) パラメーターは、セッションが監視対象となるまでの最小待機時間を定義します。 | 1 | |  |
|  |  |  |

### SSAS 2014 表形式 DB - ルール (非警告)

**SSAS 2014: ドライブの使用領域 (GB)**

このルールにより、データベース ストレージ フォルダーが配置されているドライブ上のすべてのファイルとフォルダーの合計サイズがギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: 他のものによって使用されているデータベース ドライブ領域 (GB)**

このルールにより、データベースが配置されているドライブで、データベース以外のものが使用している使用領域量が収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: データベースの空き領域 (GB)**

このルールにより、データベースのストレージ フォルダーが配置されているドライブの空き領域量がギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: データベース ディスクの空き領域 (GB)**

このルールにより、データベースが配置されているドライブの空き領域量が収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: データベース ブロック期間 (分)**

このルールにより、現在ブロックされているセッションのうち、最も長いブロック期間が収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: データベース サイズ (GB)**

このルールは、総データベース サイズ (ギガバイト単位) を収集します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: データベースのブロックされたセッション数**

このルールにより、現在ブロックされているセッション数が収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: 合計ドライブ サイズ (GB)**

このルールにより、データベース ストレージ フォルダーが配置されているドライブの合計サイズがギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: データベースの空き領域 (%)**

ルールは、データベースのストレージ フォルダーがあるドライブの空き領域 (データベース ストレージ フォルダーの推定サイズとディスクの空き領域の合計に対する割合 (%) で表される) を収集します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSAS 2014: データベース記憶域のフォルダー サイズ (GB)**

このルールにより、データベース ストレージ フォルダーのサイズがギガバイト単位で収集されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

## SSAS 2014 表形式インスタンス

Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services (表形式モード) のインストール

### SSAS 2014 表形式インスタンス - 検出

**SSAS 2014 表形式インスタンス検出**

このオブジェクト検出は、Microsoft SQL Server 2014 Analysis Services (表形式モード) のすべてのインスタンスを検出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | はい | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 14400 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

### SSAS 2014 表形式インスタンス - 依存関係 (ロールアップ) の監視

**データベース パフォーマンス (ロールアップ)**

SQL Server 2014 Analysis Services 表形式データベースのパフォーマンス正常性のロールアップ

# 付録: 既知の問題とトラブルシューティング

#### イベント 6200 および 4513 「カテゴリが存在しません」が Operations Manager のイベント ログに報告されます。

**問題:** この問題は、SQL Server Analysis Services Business Intelligence Edition の新しいインスタンスをインストールした直後に発生することがあります。

**解決方法:** マシンで Operations Manager のエージェントを再起動してください。

#### 最後の SSAS データベースまたはパーティションが削除されても、オブジェクトはまだ存在しているかのように SCOM に表示されます。

**問題:** SSAS データベースとパーティション検出の現在の実装では、最後の SSAS データベースまたはパーティションが削除されたときに、状況が正しく解決されません。この場合、削除されたオブジェクトは、ユーザーに表示されたままになります。

**解決方法:** 解決方法はありません。このエラーは、管理パックの今後のリリースで対応される可能性があります。ユーザーは、SSAS データベースまたはパーティションを追加するか、SSAS インスタンスを削除することができます。

#### 「SSAS 2014 MP マネージ モジュールの実行中にエラーが発生しました」という警告ルールで、仮想ノードに対して追加のアラートが生成されます。

**問題:** 現在のルールの実装では、ターゲットとして「SSAS 2014 シード」が使用されています。仮想ノードは共通のシードを持っているため、クラスターのノード上でエラーが発生するたびに、そのノードに関連付けられているすべての仮想エンティティから自動的にアラートが報告されます。

**解決方法:** 解決方法はありません。このエラーは、管理パックの今後のリリースで対応される可能性があります。

#### イベント 6200「Analysis Services 接続に失敗しました」エラーが Operations Manager イベント ログに報告されます。

**問題:** SSAS 管理パックのインスタンス検出ワークフローを SSAS インスタンスに接続する必要があります。接続されない場合、発生した問題がワークフローによって報告されます。このような問題は、ワークフローの実行中にインスタンスが停止したとき、またはインスタンスが正しく構成されていない場合に発生します。

**解決方法:** 'Threadpool\Query\MaxThreads' プロパティを、サーバーのプロセッサ数の 2 倍以下の値に設定します。

#### ユーザーが同じコンピューター上の 2 つ以上のインスタンスまたはデータベースの概要ダッシュ ボードを同時に開いたときに、オペレーション コンソールがクラッシュします。

**問題:** 同じコンピューター上で 2 つ以上のオペレーション コンソールを実行することができますが、そのうちの 1 つ以上の概要ダッシュボードを開くと、すべてのコンソールのクラッシュにつながります。この問題は、Web コンソールでは確認されません。

**解決方法:** 解決方法はありません。

#### インスタンスの概要ダッシュ ボードの閲覧中に、ユーザーが、既に削除されている SSAS インスタンスを選択すると、オペレーション コンソールがクラッシュします。

**問題:** このアクションにより、オペレーション コンソールがクラッシュします。

**解決方法:** オペレーション コンソールを再度開きます。

#### 「ヘルス サービスの状態」モニターが重大な状態となり、ヘルス サービスが定期的に再起動します。

**問題:** 既定では、システム管理パックの 「監視ホスト プライベート バイト しきい値モニター」 のしきい値は 300 Mb です。「MonitoringHost.exe」プロセスがしきい値を超える場合があり、SSAS 2014 管理パックが大量のオブジェクト (サーバーあたり 50 個以上の SSAS データベースまたは 1500 個以上のパーティション) に関する情報を収集するときに、「ヘルス サービスの状態」モニターが復旧手順を開始する場合があります。

**解決方法:** 「監視ホスト プライベート バイトしきい値モニター」のしきい値を上書きするか、またはパーティション オブジェクトの検出を無効にして監視対象のオブジェクトの数を減らします。

#### イベント 6200 「カテゴリが存在しません」 (ソース –「SSAS 2014 MP」) が、32 ビットの SSAS インスタンスを実行する 64 ビット オペレーティング システム上で生成されます。

**問題:** 64 ビット OS に 32 ビットの SSAS インスタンスがインストールされている場合に、SSAS がパフォーマンス カウンターを正しく登録しません。この場合、管理パックで必要なパフォーマンス カウンターを検出することができず、SSAS 2014 MP を正常に実行することができません。

**解決方法:** この問題は解決できません。WoW64 はサポートされていません。32 ビットの OS で 32 ビットの SSAS インスタンスを使用するか、または 64 ビットの OS で 64 ビットの SSAS インスタンスを使用することを強くお勧めします。

#### 大量のデータベースがある SSAS 2014 インスタンスを実行するシステムで、ヘルス サービスと監視ホストプロセスが過度のメモリを消費します

**問題:** 大量のデータベースまたはパーティションがあり、SQL Server 2014 Analysis Services の 1 つ以上のインスタンスをホストするエージェントで管理されたシステムで、「ヘルス サービス」と「監視ホスト」のプロセスが過度のメモリを消費する場合があります。

**解決方法:** 単一のサーバーで 50 個以上の SSAS データベースを監視することはお勧めしません。単一のサーバーに 1,500 個以上のパーティションがある場合は、SSAS パーティション検出を無効にすることをお勧めします。

#### ナビゲーション ウィジェット (ダッシュボードの一番左のウィジェット) で何も選択されていない場合、インスタンス、データベース、およびパーティションの SSAS 2014 の概要ダッシュボードにはすべてのアクティブな警告が表示されます。

**問題:** ナビゲーション ウィジェット (ダッシュボードの一番左のウィジェット) で何も選択されていない場合、ダッシュボードにはすべてのアクティブな警告が表示されます。

**解決方法:** ナビゲーション ウィジェットで、少なくとも 1 つのインスタンス、データベースまたはパーティションを選択します。

#### パーティション ストレージの空き領域モニターが、過度にアラートを生成する場合があります。

**問題:** データベースの既定ストレージ フォルダーとパーティション ストレージ フォルダーが同じドライブを共有している場合、モニターが大量のアラートを生成する場合があります。

**解決方法:** データベース ストレージ フォルダーと同じドライブを共有しているすべてのパーティションの監視を無効にします。

#### SSAS 2014 管理パックが、「SSAS 2014 MP マネージ モジュールの実行中にエラーが発生しました」というアラートを生成します。

**問題:** グローバルの「アクティブなアラート」ビューで、「SSAS 2014 MP マネージ モジュールの実行中にエラーが発生しました」というアラートが表示されます。

**解決方法:** このアラートは、不明な問題によって SSAS 2014 管理パックのワークフローのいずれかを実行できない場合に生成されます。根本原因を特定するには、アラートのメッセージとアラートのコンテキストを確認します。

#### SSAS 2014 管理パックは、新しい SQL Server Analysis Services のインスタンスのインストール中に、イベント ログにエラーを登録する場合があります。

**問題:** SSAS 2014 管理パックは、新しい SQL Server Analysis Services のインスタンスのインストール中にイベント ログに多くのエラーを生成する場合があります。

**解決方法: 管理**パックがインストール プロセス中にレジストリと WMI からすべての必要なプロパティを取得することができないため、この問題が発生します。インストール プロセスが終了すると、管理パックは正常に動作するようになります。

#### SQL Server 2014 Analysis Services が合計値とメモリの下限のパフォーマンス カウンターの値を正しく報告しません。

**問題:** SQL Server Analysis Services は、再構成後に合計値とメモリの下限のパフォーマンス カウンターの値を間違えて報告することがあります。

**解決方法:** SQL Server Analysis Services には新しい構成値がすぐに適用されません。新しい設定を適用するには、SSAS サービスを再起動する必要があります。

#### SSAS 2014 管理パックが、「構成ファイル 'msmdsrv.ini' へのパスの一部が見つかりませんでした」というアラートを生成します

**問題:** SSAS 2014 管理パックは、イベント ログにエラーを報告して、「構成ファイル 'msmdsrv.ini' へのパスの一部が見つかりませんでした」というアラートを生成します。この問題は、クラスターのフェールオーバー中に発生します。

**解決方法:** 解決方法はありません。この問題は、監視ワークフローがクラスターのフェールオーバー中に情報を収集しようとすると、発生することがあります。フェールオーバーが完了すると、管理パックは正常に動作できるようになります。

#### x64 の OS のコンピューターにインストールされた x86 インスタンスからカウンターを収集できません。

**問題**: x64 OS のコンピューターに x86 インスタンスがインストールされている場合、そのようなインスタンスからのカウンターの収集は機能しないことがあります。

解決方法: インストール時に、インスタンスのビット数に注意してください。

#### ダッシュボードが、管理パックのアップグレード時にクラッシュする場合があります。

**問題**: 管理パックをバージョン 6.6.7.6 にアップグレードする時に、オペレーション コンソールに ObjectNotFoundException エラーが発生し、クラッシュする場合があります。

解決方法: インポート プロセスが完了するまで待機し、オペレーション コンソールを再起動します。管理パックのアップグレード後には、必ずオペレーション コンソールを再起動します。そうしない場合、ダッシュボードは機能しません。